

さくら会 No.2 だより

平成24年7月発行

乳がん体験者の会

さくら会とは

「さくら会」は乳がん体験者の交流のための会です。

過去に乳がんを体験した方、現在治療中の方、そしてこれから治療が始まる方たちが2ヶ月に1回集まって交流しています。

6月16日(土)の会では患者さん6人、看護婦さん2人、それに橋本先生も来て下さいました。ありがとうございました。

前回(4月21日)に話題になった「塩こうじ」。「作ってみたい」「食べてみたい」と盛り上りましたが、今回はその「塩こうじ」を使ったお料理を持ってきていただきました。「塩こうじに漬けて焼いたトリ肉と魚に全員が「おいしい〜!」と舌づみを鳴らしました。基本的に「漬けて(3時間以上)焼くだけ」という手軽さも好評だったようです。

他にも参加者持ち寄りの「わらびの漬け物」「ラディッシュの浅漬け」「米粉ワッフル」などがあり、ほとんどバイキング状態。そうすると話題もおいしい食べ物やおすすめのお店、さらには「ベンゼンには炭酸水が効くらしい」という話まで出て楽しい会でした。

次回は **8月18日(土)** 予定
9:00~12:00まで
3階 第1会議室にて

参加申し込み不要・会費なし
都合のつく時間においで下さい。
楽しくしゃべりましょう。

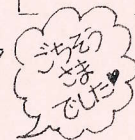
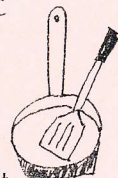
Written by K.

塩こうじ

作り方は「さくら会ノート」にあります。

- 肉や魚の他に使い方は
- ・野菜を漬けて「漬け物」に
 - ・なっとうに混ぜるとネバネバUP!
 - ・みそ汁にさじ加える
- ……など

塩こうじで **免疫力アップ!**
暑い夏を乗り切りましょう。



患者自身も積極的に学び、活動することが必要—と、熱く語って下さいました。中でも日本の伝統技法「**金継ぎ**」の茶碗を乳がん患者の身体に例えたお話に感銘を受けました。

参加者の声-寺田さんのお話を聞いて... 2人の方が感想を寄せて下さいました。ありがとうございました。

割れた破片を漆で接着し、その部分に金や銀を塗った茶碗は、新たな工芸品として価値を高めるという。その「**金継ぎ**」という手法の話聞いた時、私の頭に浮かんだのは自分の右胸の傷でした。この傷に私も、私にとっての金や銀を塗り込められるんだ!!と、あの時(6/26)思ふかどうだか定かではありませんが、私は「**金継ぎ**」の話にとっても感動しました。右胸はなくなったけど、私は何も変わらない「私」。無理はしないけど、必要以上にセーブすることなく、今まで通りの自分でいていいんだと思ったら、目の前がパッと明るくなった気がしました。----- (す)

第8回 置賜乳眼ネットワーク 平成24年6月26日(火)
グランドホクヨウ米沢

私たち患者も参加させて下さいました

一般演題に続いて特別講演「被災された乳がん患者さんとともに」
I.「東日本大震災における石巻赤十字病院での乳がん患者への試み」

石巻赤十字病院 療養支援室 看護係長 佐藤京子さん

東日本大震災では医療機関も壊滅的な被害を受けましたが石巻市では唯一石巻赤十字病院だけが被害を免れることができました。佐藤さんはご自身の被災体験と、困難な状況の中でがん患者さん達をどうやって受け入れたか語って下さいました。

今まで経験したことがない大災害の中、佐藤さん達が患者さんの心に寄り添った活動をされてきたということに感動しました。

II.「がん患者向けケアグッズの力:被災地支援活動を例に」

ワンワールド・プロジェクト 代表 寺田真由美さん

寺田さんは被災地のがん患者さんに必要なケアグッズ(かつらや帽子

など)を送ろうと立ち上った「ワンワールド・プロジェクト」の代表です。本業は翻訳家。自らの「がんサバイバー」としての体験をりまぜながら、「がんになっても希望をもてる社会づくり」を目指し、

医療に関することはさて置き、特別講演は「心掴まれた!」ものでした。

講演後、立ち話ではありましたが初対面にもかかわらず佐藤先生、寺田さんにはとても気さくに話していただけたこと、感激の一言です。「乳がん」を通じ、また新たな繋がりを感じ取れた気がしました。芸能人の方とはまた違った今回の講演を、もっとたくさんの方が参加出来る機会をまた是非にと願います。----- Y.